

週間火山概況 (平成 25 年 11 月 22 日～11 月 28 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

22日、西之島に火山現象に関する海上警報を発表しました。

その他の火山については、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴 (11 月 22 日～11 月 28 日)

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概 要
22 日 13 時 03 分	西之島	火山現象に関する 海上警報	新島の位置情報に修正
23 日 09 時 19 分 24 日 02 時 57 分 24 日 09 時 25 分 24 日 16 時 42 分	桜島	降灰予報	噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 11 月 28 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	桜島
	レベル 2 (火口周辺規制)	三宅島、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	西之島、硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山 (11 月 28 日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

三宅島みやけじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴煙高度は、火口縁上0～100mで経過しました。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに警戒してください。

西之島にしのみ [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

西之島では、活発な噴火活動が続いています。

22日に海上保安庁が実施した観測によると、新島の大きさに変化はありませんでしたが、高さが21日より高くなり、新たな火口（第2火口）が21日に確認された火口（第1火口）の東に形成されているのが確認されました。2つの火口からは、爆発的な噴火が交互あるいは同時に約2分毎に発生していました。第1火口及び第2火口内には溶岩と思われる赤熱した部分が確認されました。

24日に朝日新聞社の協力を得て東京大学が実施した観測によると、第1火口では、数秒から数十秒間隔で噴火を繰り返しており、噴煙と火山弾¹⁾は上空300～400m程度まで噴き上がり、火山弾が水平距離で約500mまでの範囲に着水しているのが確認されました。また、新島の北東側では海に突き出した溶岩地形が確認されました。

26日に海上保安庁と共に行った上空からの観測では、海に突き出した溶岩流は東に伸びており、長さ約50mに達していました（図2）。また、海上保安庁による熱赤外画像の観測では、第1、第2火口とは別に溶岩流の火口が2ヶ所あり、それぞれの噴出口から溶岩流が東と南方向に向けて流下しているのを確認しました。

以上のことから西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島付近では噴火に警戒して下さい。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

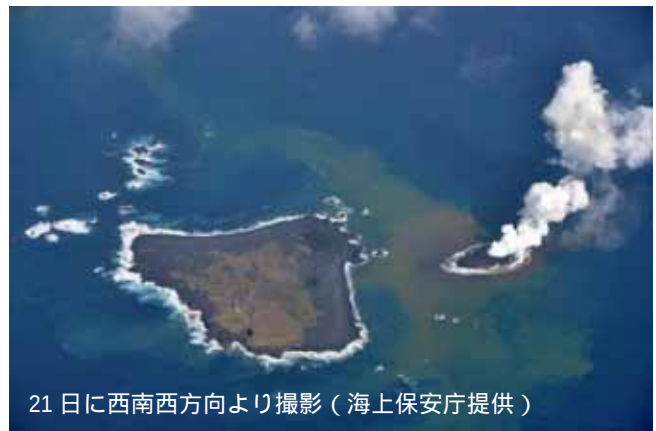


図2 西之島 26日14時36分頃の状況（左図）と21日13時10分頃の状況（右図）

硫黄島いおうとう [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

国土地理院の観測によると、地殻変動は2013年9月頃からほぼ停滞していましたが、11月頃から沈降に転じています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（旧噴火口等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場ふくとくおかのば [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われませんでした。これらの機関によるこれまでの上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生

すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

きりしまやま しんもえだけ**霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

新燃岳では今期間、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

傾斜計²⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

国土地理院の広域的な地殻変動観測によると、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は2011年12月以降鈍化・停滞しています。一部の基線で、2012年5月頃からわずかな縮みの傾向がみられ、同年9月頃から停滞しています。

新燃岳の火山活動は落ち着いた状態が続いています。しかし、火口内に溜まった溶岩は依然高温状態にあり、火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性は残っています。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

さくらじま**桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]**

桜島では、活発な噴火活動が続いています。

昭和火口では、爆発的噴火が14回発生し、大きな噴石³⁾が最大で4合目（昭和火口より800～1,300m）まで達しました。24日16時23分の爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上4,000mまで上がり、北側から北東側にかけて流れました。同日に実施した現地調査および聞き取り調査の結果、桜島島内から霧島市付近や宮崎県南部にかけて降灰を確認しました。桜島島内の高免町から黒神町付近にかけての範囲（昭和火口から北東側約4.5km）では、最大7mmの小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）を確認しました。26日01時31分の爆発的噴火では、桜島島内の鹿児島市黒神町桜島口付近（昭和火口から南東側約4km）で、最大15mmの小さな噴石（火山れき）を確認しました。

南岳山頂火口では、22日14時10分にごく小規模な噴火が発生しました。

22日、26日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり、それぞれ1600トン、1500トン（前回11月15日、900トン）とやや多い状況でした。

国土地理院の広域的な地殻変動観測によると、桜島島内の基線で、2013年2月頃からわずかな伸びの傾向が見られましたが、同年7月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向が見られます。鹿児島（錦江）湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていましたが、6月頃から停滞気味です。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

すわのせしま**諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

諏訪之瀬島では活発な噴火活動が続いています。

あたけ御岳火口では、27日に爆発的噴火が7回発生しました。遠望カメラでは火口付近に飛散する噴石を確認しました。諏訪之瀬島で爆発的噴火が発生したのは、2013年9月30日以来です。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は26日から28日にかけて連続して発生しました。同火口では、夜間に高感度カメラで確認できる程度の火映を観測しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山弾とは、火山の噴火の際に放出される溶岩の破片あるいは岩石を指します。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。
 詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4（避難準備）		
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル1（平常）	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報（周辺海域）（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。